第２学年２組　社会科学習指導案

日　時　平成２８年１０月１３日（木）第３校時
生　徒　〇〇市立〇〇中学校　〇〇名
場　所　２年２組教室
授業者　実習生　大澤　穂　　印

１．単元名　「近畿地方　―歴史の中で形づくられてきた人々のくらし―　」

２．単元の目標と評価

（１）目標

近畿地方に見られる歴史的景観を中核となる事象として取り上げ、それを歴史的背景や地域の産業、人々の生活などと関連付けて考察することを通して、伝統の継承や観光地としての工夫から景観を保護する取組が進められているという近畿地方の地域的特色を理解する。

（２）評価規準

ア　社会的事象への関心・意欲・態度	イ　社会的な思考・判断・表現	ウ　観察・資料活用の技能	エ　社会的事象についての知識・理解
○近畿地方の自然災害とその対策について関心をもっている。 ○近畿地方の伝統工芸品が今でも受け継がれていることに関心をもっている。 ○京都の景観や町並みを保つための工夫に関心をもっている。	○京都の歴史的な町並みや伝統的な文化などによって、世界から多くの観光客が来ていることをとらえている。 ○大阪市の発展に私鉄が大きな役割を果たしてきたことをとらえている。	○近畿地方の地域の自然環境の特色について、図表から読みとっている。 ○資料から近畿地方の産業の変化を読み取っている。 ○近畿地方が大規模な開発を行ってきたことを地図から読み取っている。	○近畿地方の３つの地域の自然環境の特色を理解している。 ○近畿地方の大都市や産業の特色を理解し、歴史的背景を理解している。 ○大阪市の商業都市としての特色を歴史的背景を通して理解している。 ○ニュータウンが建設された理由と課題を理解している。

３．単元について

（１）教材について

本単元は、中学校学習指導要領（社会）の地理分野（２）日本の様々な地域の「ウ　日本の諸地域」について学習する。ここでは、「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追及する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせ

ること」を主なねらいとしている。また、学習指導要領の内容の取り扱いにもあるように、それぞれの地域の自然の特色や産業の特色などの項目を羅列的、並列的に取り扱うことは地域的特色を生徒に理解させることが困難となるため、指導にあたっては「地域の特色ある地域的事象やことがらを中核として、それを他の事象として有機的に関連付けて、地域的特色を追究すること」とし、動態的に扱うようにする。

本単元では、近畿地方の自然環境や人口、産業について学習し、歴史の中で形作られた都市や郊外について学習していく。学習指導要領に示された七つの考察の仕方のうち「歴史的背景を中核とした考察」によって、近畿地方の地域的特色をとらえさせる。近畿地方は、古くから日本の政治、文化の中心地として栄え、歴史的に形成されてきた町並みや文化財を多く見ることができる地域である。この地域に残る文化財は歴史的分野の学習でも取り上げられるため、分野間の学習を相互に関連付ける学習を行う。

（２）生徒の実態

本学級は、積極的に社会科の学習に取り組む生徒が多い。地理的分野への興味・関心を持つ生徒が多いが、地理的事象を知識として暗記するだけにとどまっている生徒も多く見られる。また、複数の資料や事象を関連付けて考察することや資料を読み取り、自分の言葉で説明することを苦手としている。 そのため、本単元では中核となる地理的事象と、既習事項や自分たちで考えたことを関連付けて考察させ、その関係性を資料の読み取りや既習内容をつかって自分の言葉で説明する活動を重視する。

４．単元の指導計画（５時間扱い）

時	ねらい・主な学習活動	学習における具体的な評価基準
1 本 時	近畿地方の自然環境の特色をとらえよう。 ・近畿地方の３つの地域の自然環境の特色をとらえる。 ・近畿地方の自然災害の特徴と対策を理解する。	エ　近畿地方の３つの地域の自然環境の特色を理解している。 ウ　近畿地方の地域の自然環境の特色について、図表から読みとっている。 ア　近畿地方の自然災害とその対策について関心をもっている。
2	近畿地方の産業の特色をとらえよう。 ・近畿地方の産業の特色をとらえる。 ・近畿地方で今でも受け継がれている伝統工芸品を知る。	エ　近畿地方の大都市や産業の特色を理解し、歴史的背景を理解している。 ウ　資料から近畿地方の産業の変化を読み取っている。 ア　近畿地方の伝統工芸品が今でも受け継がれていることに関心をもっている。
3	なぜ京都には多くの人が集まるのだろう。	イ　京都の歴史的な町並みや伝

	・京都の歴史的な町並みや伝統的な文化などによって、世界から多くの観光客が来ていることをとらえる。 ・京都の景観や町並みを保つために工夫していることを知る。	統的な文化などによって、世界から多くの観光客が来ていることをとらえている。 ア　京都の景観や町並みを保つための工夫に関心をもっている。
4	近畿地方の都市や郊外はどのように形成されたのだろう ・大都市である大阪が発展した背景をとらえる。 ・近畿地方に多くの人を呼ぶために近畿地方の私鉄が工夫していることを知る。	エ　大阪市の商業都市としての特色を歴史的背景を通して理解している。 イ　大阪市の発展に私鉄が大きな役割を果たしてきたことをとらえている。
5	近畿地方のニュータウンはなぜ建設されたのだろう ・ニュータウンがいつ、どのような理由で建設されたのか理解する。 ・ニュータウンの課題を知る。	エ　ニュータウンが建設された理由と課題を理解している。 ウ　近畿地方が大規模な開発を行ってきたことを地図から読み取っている。

５．本時の学習（１／５）

(1)本時の目標

・近畿地方の３つの地域の自然環境の特色を理解する。

・近畿地方の地域の自然環境の特色について、図表から読みとる。

・近畿地方の自然災害とその対策について関心をもつ。

(2)展開

過程 (時配)	教師の指導	児童の活動	☆指導上の留意点 ★評価
導入 １０分 （２分） （３分）	○近畿地方が７つの都道府県から成り立っていることを確認させる。 「近畿地方は７つの都道府県から成り立っていますが、どこのことなのか確認します。」 ○地図帳で近畿地方を確認し海に囲まれていることを確認させる。 「地図帳で近畿地方の位置を確	・大阪府　・京都府 ・奈良県　・三重県 ・滋賀県　・兵庫県 ・和歌山県 ○地図帳で確認する。	☆カードを使って確認する。

	認しましょう。」 「近畿地方を囲んでいる北、南、西の海はなんという海か覚えていますか。」	・北　日本海 ・南　太平洋 ・西　瀬戸内海	
（２分）	○日本標準時子午線を確認させる。 「近畿地方には日本の標準時子午線が通る都道府県があります。どこを通り、何度ですか」	○地図帳に赤ペンで線を引かせる。 ・兵庫県明石市 ・東経 135 度	☆隣と確認させる。
（３分）	○課題提示	○課題を把握し、ノートに書く。	
	近畿地方の自然環境の特色をとらえよう。		
展開１ ２０分 （３分）	○リアス海岸の説明をする。 「若狭湾と志摩半島を探してください。他の部分に比べてどうなっていますか？これはリアス海岸が発達しているためです。リアス海岸とは山地の谷であったところに海水が入り込んでできたものです。」	・ギザギザしている ○リアス海岸の説明をノートに書く。	☆リアス海岸の図を提示しながら説明する。 ☆教科書p. 181の□５も確認する。
（５分）	○近畿地方の３つの地域の異なる自然環境を説明する。 「教科書 p. 181 の□３を見て、各地の気温と降水量を見て、気付いたことはありますか」	○教科書 p. 181 の□４の潮岬、大阪、舞鶴を確認し、ラインマーカーを引く。 ・潮岬は降水量が多い ・大阪は降水量が少ない ・舞鶴は気温が低い ・潮岬は気温が高い	☆４人班で話し合わせ、ボードに書き発表させる。
（３分）	「この３つの地域から地域によって自然環境が異なるということがいえますね。近畿地方は舞鶴を含める丹波高地周辺の北部、大阪府を含		★近畿地方の地域の自然環境の特色について、図表から読みとっている。

	める琵琶湖や淀川周辺の中央低地、潮岬を含める紀伊山地周辺の南部の３つの地域に分けられます。」		
（３分）	○北部の自然環境を説明する。 「北部の陸地の高さは、教科書 p. 181 の□４を見て、どうですか？陸地の高さは高いですね。つまり北部には山が多くあります。そのため、冷涼な気候で冬には多くの積雪がみられます。」	○教科書 p. 181 の□４を見て、陸地の高さを確認する。 ・５００ｍ　・１０００ｍ ○ノートに北部の特徴を書く。	☆生徒がボードに書いてくれたことと絡めて説明する。
（３分）	○中央低地の自然環境を説明する。 「中央低地の陸地の高さは、教科書 p. 181 の□４を見て、どうですか？陸地の高さは場所によって大きく異なりますね。これは、平地もあれば山地もあり、盆地（周りを山で囲まれた平地）もあるということです。」	・１００ｍ　・５００ｍ ○ノートに中央低地の特徴を書く。	
（３分）	○南部の自然環境を説明する。 「南部の陸地の高さは、教科書 p. 181 の□４を見て、どうですか？北部よりも陸地の高さは高そうですね。これは、山地であるということです。温暖で年降水量が多いので、樹木の成長が早く、すぎやひのきが生産されています。また、和歌山県で有名なものといえばなんですか？和歌山県の山の斜面では、温暖	・５００ｍ　・２０００ｍ ・みかん ○ノートに南部の特徴を書く。	★近畿地方の３つの地域の自然環境の特色を理解している。

	な気候を利用してみかんや梅が栽培されています。」		
展開２ １５分 （３分） （２分） 動画５分 （５分）	○近畿地方の自然災害の特徴と対策を説明する。 「近畿地方は海に囲まれているので、土地の低いところでは台風によって高潮や洪水の被害を受けることがあります。そのため、堤防や水門、監視システムを整備し、災害に備えています。」 「また 1995 年に発生した近畿地方の大きな地震をしっていますか？阪神淡路大震災は、最大で震度７を記録し、近畿地方に大きな被害を出しました。これからその映像を見て、感想を発表してください。」 ○阪神淡路大震災の動画を見させ、地震を教訓にした対策を説明する。 「この地震を教訓にして、同じ被害を出さないために、近畿地方では活断層の調査や住宅の耐震化、津波への対策など対策が進められています。いつ自然災害が起こるのか分からないので、みんなも避難訓練を真剣に取り組んだり、家族と起きたときにどうするか話し合ったりして事前準備をしておいてください。」	○近畿地方の自然災害の特徴をノートに書く。 ・阪神淡路大震災 ○感想を発表する。 ・怖い ・多くの建物が壊れていた ・いつ起こるか分からないから事前に準備しておく ○ノートに対策を書く。	★近畿地方の自然災害とその対策について関心をもっている。
まとめ	「今日は近畿地方の自然環境に		

５分	ついて勉強しました。近畿地方はいくつの地域に分けられるのでしたか？北部、中央低地、南部の３つの地域で自然環境が異なることが分かりました。また、近畿地方では自然災害に備えて対策が念入りに進められていることも分かりましたね。では、今日のまとめを書きます。」	・３つ 〇まとめをノートに書く。	

＜板書計画＞

近畿地方の自然環境の特色をとらえよう

〇近畿地方の自然環境

近畿地方の
拡大地図

リアス海岸…山地の谷であったところに
海水が入り込んでできた
（若狭湾と志摩半島）

ボード　ボード　ボード

〇近畿地方の自然災害と対策

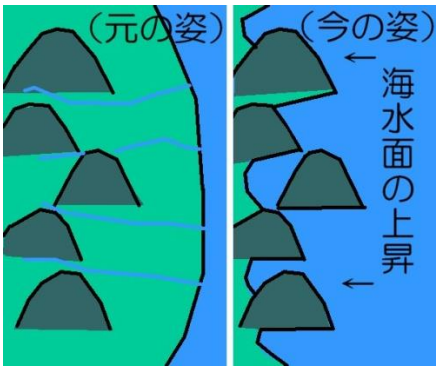
土地の低いところ…台風によって高潮や
洪水の被害を受ける
＜対策＞堤防、水門、監視システム

1995 年　阪神淡路大震災
＜対策＞活断層の調査、住宅の耐震化、
津波への対策

＜北部＞　冷涼の気候、冬は多くの積雪
＜中央低地＞平地、山地、盆地
＜南部＞　温暖な気候、降水量多い→みかんや梅の栽培が盛ん
樹木の成長が早い

まとめ　近畿地方は３つの地域で異なる自然環境の特色があり、自然災害にそなえて対策が進められている。

＜資料＞
リアス海岸



阪神淡路大震災　動画　５分
https://youtu.be/hZ1vTGKqXOU

(3)評価

・近畿地方の３つの地域の自然環境の特色を理解している。(知識・理解)
・近畿地方の地域の自然環境の特色について、図表から読みとっている。（資料活用の技能)
・近畿地方の自然災害とその対策について関心をもっている。(関心・意欲・態度)